

昭和興産は中期経営計画「SK2020」で既存事業の拡充と新規商材の育成、海外展開の強化を進めている。最終年度となる2020年度は、主要取引先や海外現地法人との連携強化により国内外で新規アーマや新規商材の拡販に力を入れる。

同社の19年度(12月期)の業績は売上高は前年度に比べ減少したが、利益面では高付加価値商品の販売に注力したことで利益率が向上した。合成樹脂は自動車、産業機器などの輸出関連分野向けが中国の景気後退で減少、化学品は無機材料分野でエンジンオイル用商材などが増加した。産業資材は土木資材分野でセメント・コンクリート混和剤が伸びた。

20年度は新型コロナウイルスによる業績への影響で5~6月は一時的にユーザの稼働が低下したが、この局面を全社で8割のテレワーク体制で支障なく運営してサブライチェーンを支え、7月

国内外で新規商材を拡販

以降の回復に期待する。

新規商材の育成では、環境配慮型商材と医療機具向けの樹脂原料が加わっており、他企業との連携も進める。インドネシアで現地企業との連携による事業展開を見込むハーフビジネスに関しては、今秋までに最終判断を下す考え。セルロースナノファイバーは着実にテストを進めるなど実用化へ向けた取り組みを進めており、将来の事業柱として育成を目指す。

海外展開ではベトナム・ホーチミン市に駐在員事務所を開設し1月から活動を開始した。タイ現地人である昭和興産タイランドの駐在員事務所という位置づけになる。

人員については海外での営業戦略強化を念頭に置いた増強を進めており、新卒5人のほか、即戦力の中途社員も積極的に採用した。中国では2年前に上海、広州拠点でスタッフを増員している。引き続き海外強化を実現するための人材採用・育成に力を入れていく。